

相川小学校 校内研究の概要

研究主題

**個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実した授業をめざして
～ICTの効果的な活用を通して～**

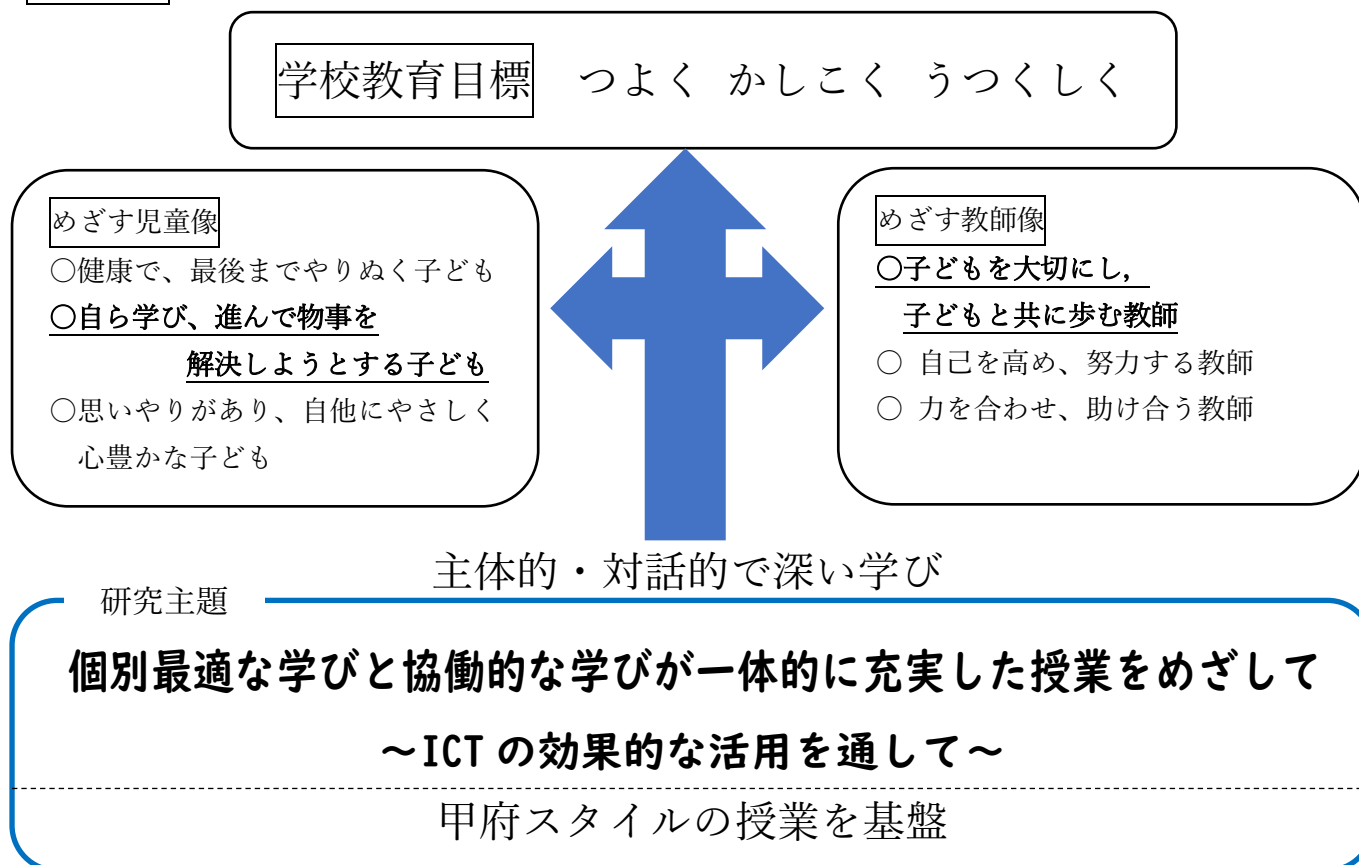
1. はじめに

今年度の校内研究は昨年度の反省より、新たに研究主題を設定し、今日的な課題の解決+「日々の実践」や「研究授業を全員で練り上げ、振り返り、課題と成果を共有していく」ことによって教師としての力量を高めていくことを目的として行いたいと思う。そのため全て課題解決トピック型の研修を行うのではなく、日々の実践を軸とし、研究授業を日々の実践の集大成として行うことで主題を達成するにはどのような授業や手立てを講じればよいのか全員で研究する。仮説検証型の校内研究ではないので、こうしたら子どもがこうなるだろうという仮説は打ち立てないが、最終的にめざす子供像は本校のめざす児童像でもある、

- 健康で、最後までやりぬく子ども
- 自ら学び、進んで物事を解決しようとする子ども
- 思いやりがあり、自他にやさしく心豊かな子ども

とする。そのために、甲府スタイルの授業を基盤として研究主題「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実した授業をめざして～ICTの効果的な活用を通して～」の校内研究を進めていく。

研究構想図



2. 研究主題について

①なぜ、このような研究主題なのか

令和3年1月に中央教育審議会から公表された答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」の中に「全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学び」といった言葉が使われ、これからの日本の教育の方向性が示された。それを受け、令和5年度山梨県学校教育指導重点にも「確かな学力の育成」として、

学習指導要領の趣旨を踏まえた、「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」を一体的に充実し、「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業改善及び評価に取り組み、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努める。

と方針が出された。本校の児童の実態を見ても、多様な価値感をもつ児童が増えてきている。また、本校の学校教育目標にも、

めざす児童像 「○自ら学び、進んで物事を解決しようとする子ども」
めざす教師像 「○子どもを大切にし、子どもと共に歩む教師」

とある。視点を変えて考えると、




めざす児童像 「○自ら学び、進んで物事を解決しようとする子ども」
=自ら学習を調整、学習を深め、広げられる児童
めざす教師像 「○子どもを大切にし、子どもと共に歩む教師」
=個に応じた指導を行うことで、一人一人の児童を大切にして共に歩む教師

と捉え直すこともできる。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざすことで学校教育目標を達成することができる考えた。国がめざしている方向、山梨県がめざしている方向、そして本校の学校教育目標の3点から研究主題を「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実した授業をめざして」とした。「個別最適な学び」と「協働的な学び」といった新たな視点をもつことで、学びの一層の充実と図っていききたい。

3.2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

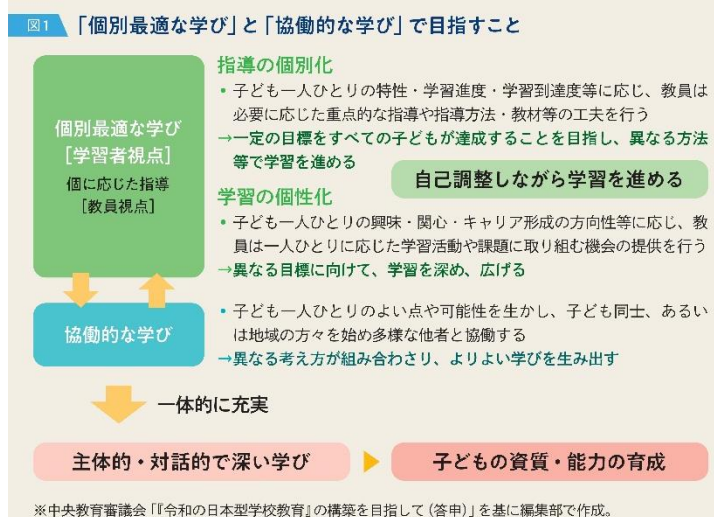
2020年代を通じて実現を目指す学校教育 「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／

 子供の学び	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている ✓ 各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている <p style="text-align: center;"> #個別最適な学び #協働的な学び #主体的・対話的で深い学び #ICTの活用 </p>
 教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている ✓ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている ✓ 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている <p style="text-align: center;"> #教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携 #学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加 </p>
 子供の学びや 教職員を支える環境	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている ✓ 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている ✓ 人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている <p style="text-align: center;"> #ICT環境の整備 #学校施設の整備 #少人数によるきめ細かな指導体制 </p>

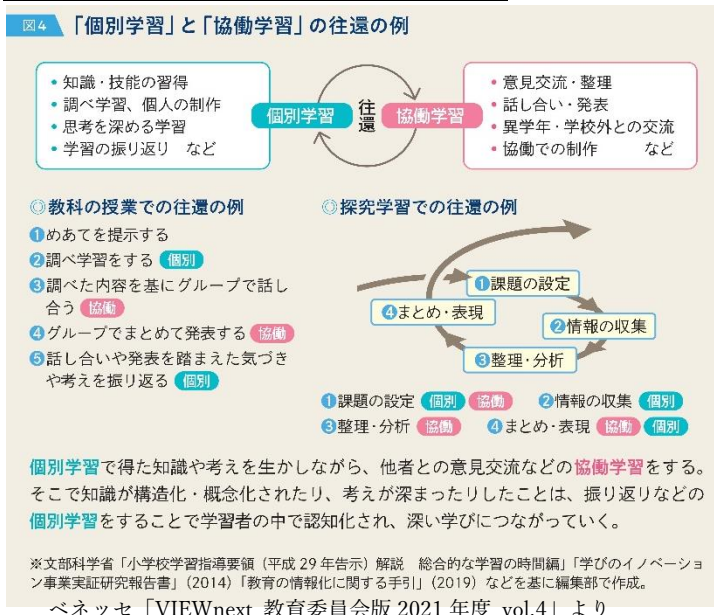
中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）【総論解説】」より

②「個別最適な学び」「協働的な学び」とは



良さを生かして補完し合う学習のことだと考えられる。

③なぜ一体的な充実した授業をめざすのか



を行うことで、自分の考えを捉え直し、考え深め、広げることができる。そして、深まったり広がったりした考えをもとに新たな自分なりの考えをもつことができるようになる。と考える。

④なぜ、「ICTの効果的な活用を通して」なのか

「個別最適な学び」を行おうとすると、児童全員の学習状況等を把握する必要があることが容易に想像される。しかし、従来の授業の進め方では一人の教師が全員の状況を把握することは不可能に近い。そこで、ICTを活用することで、児童の学習状況や学習履歴を教師が把握し、その児童にあった指導を行うことが可能となる。また、児童本人が自らの学習の状況を把握することで、主体的に学習を調整することができるよう促すことが可能となる。「協働的な学び」においてもICTを活用することでお互いの情報を共有しやすくなったり、自分で選択して情報を得ることができるようになったりするなど、利点が多い。そのため、ICTを活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実した授業に近づくと考えた。ただし、ICTはあくまでツールであり、なんでも使うのではなく効果的な活用を模索していきたい。

⑤なぜ「甲府スタイル」の授業が基盤なのか

甲府スタイルの授業を基盤とすることで、教師にとっても児童にとってもぶれない授業を行うことができ、確かな学力を身に着けることができるとともに、より個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実した授業に近づくと考えられる。特に「こ 子どもの視点に立った見通しと振り返り」では子どもの視点に立って授業を考えることで、授業をデザインしやすくなる。そのため、ねらいがぶれない、ゴールが明確な授業となり、個に応じた指導がしやすくなると思われる。

3. 今年度の方向性について

①具体的な研究内容について

今年度は、研究主題「個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実した授業をめざして～ICT の効果的な活用を通して～」の1年次と設定し、「個別最適な学び」を行うには、どのようにICTを活用して子どもの状況を把握していけば、授業づくりをする上で効果的なのか模索していきたい。

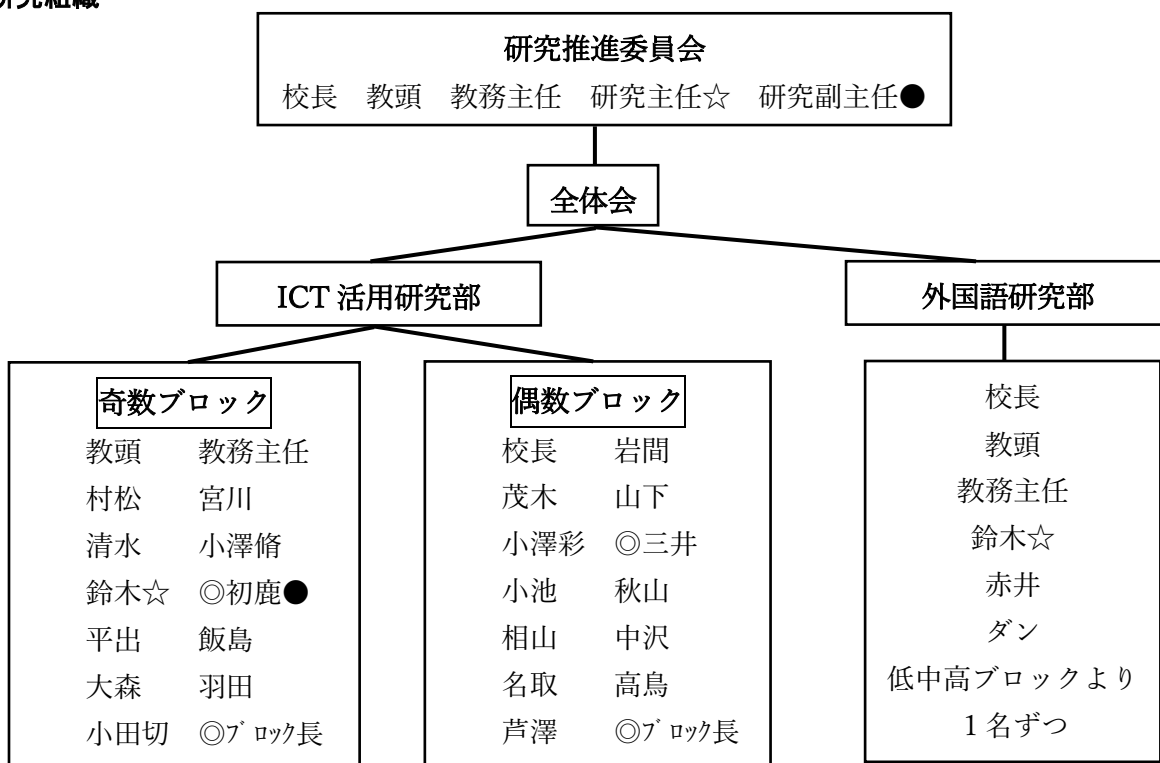
これまでの授業において、協働的な学習は多く取り入れられていたが、子ども全員を対象とした個に応じた指導は行えていない。また、子どもたちも自ら学習を調整する力を簡単に習得できるものではない。研究の一步目としてICTを活用しての子ども学習状況を把握して、個に応じた指導を行うことを目標にし、最終的に児童が自ら学習を調整する力を習得できるよう研究を進めていきたい。理想としては、子ども全員の状況を把握して行いたいですが、今年度は特に支援を要する児童を主な対象として、児童が自ら学習を調整する力と習得できるよう具体的に研究を進めていきたい。

②研究授業・研修会について

昨年度の反省から、今年度は研究授業を行い、全員で研究討議を行っていききたい。時期や方法においては今後検討していくが、教師も協働的に学べるような研究授業をめざした。

校内の研修会においては、道具としてのICT端末活用能力を向上させることと、研究を通して個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実した授業の具体像をつかみ、教科を問わず実践すること目標に適宜開催していきたい。

4. 研究組織



5. 研究計画

時期(月)	研究活動	内容
4月	校内研究部内会議	・研究の概要及び方向性についての検討
5/17	校内研究会① (小中高連携授業視察)	・研究の概要及び方向性についての提案 ・研究計画の提案 (・英語推進事業についての全職員での共通理解) (・相川小の英語の授業参観及び交流)
6/14	校内研究会② (小中高連携授業視察)	・研究の概要及び方向性についての決定 ・研究計画の決定 (・CAN-DOリストの確認及び共有) (・北東中の英語の授業参観及び交流) (・西高校の英語の授業参観及び交流)
7/5	校内研究会③	・研究授業の内容の検討
7/21	校内研究会④	・ICTの活用方法についての検討
8/21	校内研究会⑤	・研究授業指導案検討 ・教育課程還流報告
8/18	小中合同学習会	(・北東中学区小中合同学習会) ・情報交換及び研究授業の検討
9/6	校内研究会⑥	・研究授業指導案検討 (・ICTの活用方法についての実践共有)
10/4	校内研究会⑥	・研究授業及び反省会or指導案検討
11/15	校内研究会⑦	・研究授業及び反省会 (・英語研究授業及び研究会(外部業者による撮影))
12/	校内研究会⑧	・研究授業の成果と課題の分析 (・英語・成果発表会に向けて内容検討) ・研究紀要作成に向けて
1/10	校内研究会⑨	・英語教育改善プラン成果発表会に向けて準備 (校内へのプレゼン及び反省) ・令和5年度の成果と課題の検討
2/9		・英語教育改善プラン成果発表会
2/21	校内研究会⑩	・年間の反省と次年度に向けて
3/		・次年度の校内研究の概要及び方向性についての検討